## KAWASAKI STEEL GIHO Vol.8 (1976) No.3

On the Capacity Increase and Operational Improvements of Hot Stoves

(Mitsuo Saino) (Hiromitsu Takahashi) (Motozo Yasuno) (Kazuaki Tanaka)

:

1973 1972

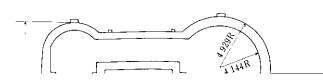
1280

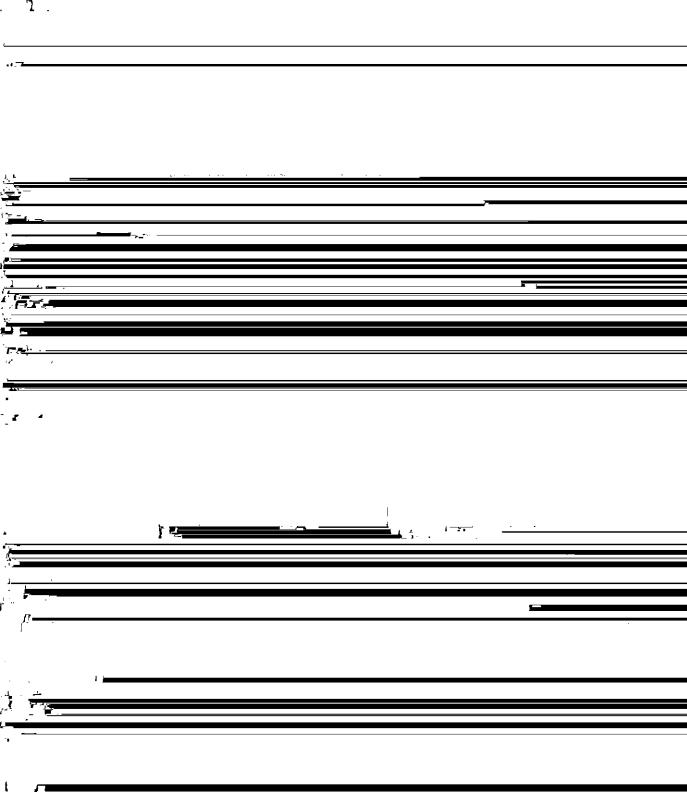
## 熱風炉の能力増強と操業改善について

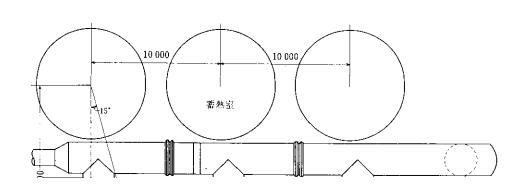
	On the Capacity Increase and Operational
	7(-
! .	
:	
	才 野 光 男 <sup>*</sup> 髙 橋 洋 光 <sup>**</sup> Mitsuo Saino Hiromitsu Takahashi
	安 野 元 造*** 田 中 和 精****
,	Motora Venue Vanishi Tanahi
1	·
	Synopsis:  No. 3 and No. 4 blast furnaces at Chiba Works were reconstructed in 1973 and 1972 respectively. Taking these op-
<u> </u>	northwities the Courtestand Later and the courtestand to the Courtesta
·	

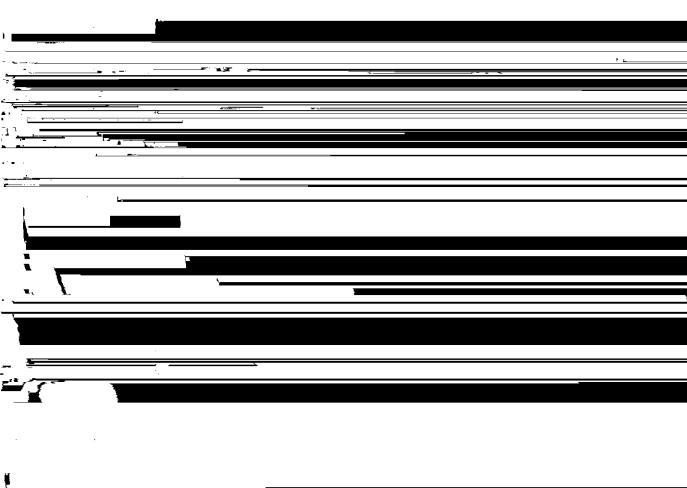
工等に次のような制約があった。

- (1) 改修期間の制限
- (2) 燃焼室増設スペースの不足
- (3) 基礎配力の不足



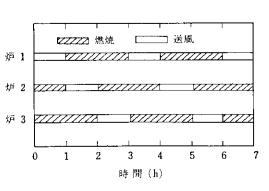


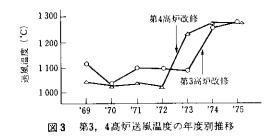




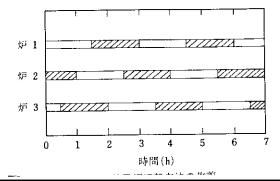
(a) 2 基燃 / / L 基 送 風

	第3高炉 付属 HS	第4高炉 付属 HS
送 風 量 (Nm³/min)	2 839	2 697
送 風 圧(kg/cm²)	2.503	2.341
送 風 温 度(℃)	1 263	1 265
ドーム温度 (℃)	1 450	1 440
廃ガス温度(℃)	340	334
B ガス量(Nm³/h基)	42 500	41 000
C ガス量(Nm³/h基)	4 200	4 000
ミナス重油量 (l/h基)	1 200	1 150





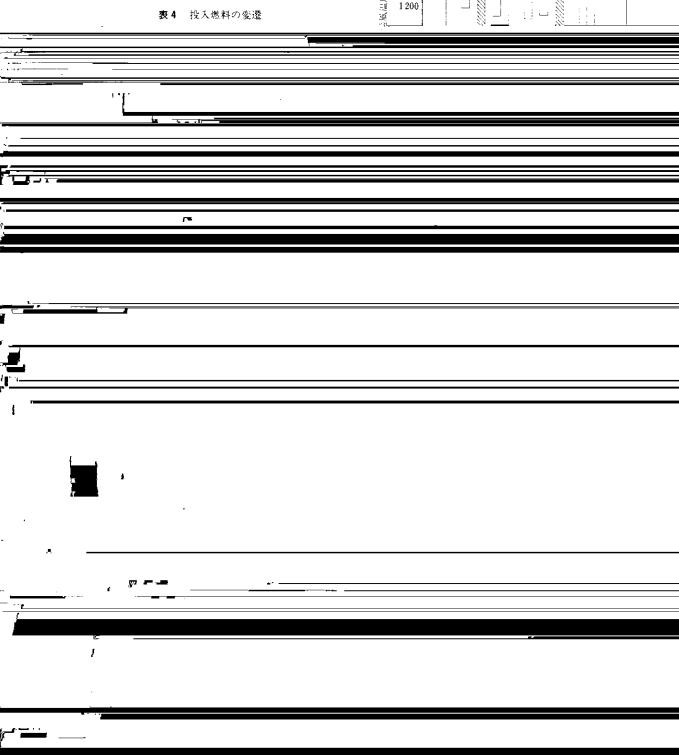
(b) セミラップ送風



今まで行ってきた改善の中で代表的なものを時系

川崎製鉄技報 July 1976 ものの一つである。理論的には、燃料成分が一定 公/重油 ►カスケード 制御 であれば空燃比は変動しないが、Bガスの成分変 カスケード制御 重油 空気停止 防止を目的として行っている。**表 4** に燃焼時の投入燃料の変遷を時系列的に示す。





忿	考	文	献
40	-	x	MA

11	川市本制 金田	園 結の機性に入口	\ =7	でくり てきまけいさん	· <u>lab. IV ) à LI lab. L</u>	s	 ACT I M
1.							
	1						
	1						
	1						
	1						
	12-7-						
	1						
	1						
	1						
	1						
	1						
	1						
	1						
	1						
	15-7						
	15-5						

会第9回銑鋼設備分科会資料7月5日,(1973)